



Kyushu University of Health and Welfare Repository

# コミュニティソーシャルワーカー養成のスーパービジョン研究 : セルフヘルプ・アプローチによるグループスーパービジョン手法の構築

著者	脇田 寛史
学位名	博士(社会福祉学)
学位授与機関	九州保健福祉大学
学位授与年度	平成26年度
学位授与番号	37604博甲第ツ042号
URL	<a href="http://doi.org/10.15069/00000564">http://doi.org/10.15069/00000564</a>



氏 名	脇田 寛史
博士の専攻分野の名称	博士（社会福祉学）
学位授与の日付	2015 年 3 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	コミュニティソーシャルワーカー養成のスーパービジョン研究 ーセルフヘルプ・アプローチによるグループスーパービジョン手法の構築ー
論文審査員	主査 教授 横山 奈緒枝 副査 教授 渡邊 一平 副査 教授 高橋 睦子 副査 教授 橋迫 和幸 副査 教授 中田 智恵海（佛教大学）

## 論文内容の要旨

### 1. 研究目的

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域生活支援の展開に苦慮している者が多い。その要因の一つとして、地域生活支援を得意とするスーパーバイザー（バイザー）不足と、スーパービジョンを実施する体制の不備が挙げられる。そこで本研究では、地域生活支援を展開する CSW のスキルアップを図る GSV 手法の確立を目的とし、次の 3 点を具体的な目的とし、本研究手法の確立に取り組んだ。

1. CSW 養成のための手法（14 ステップ）の提示。
2. CSW 養成のためのシート（課題検討シート）の提示。
3. 手法とシートを活用した GSV 成果の検証。

### 2. 論文の構成

本論文は、全体を 4 部、10 章で構成している。第 1 部日本における SV の現状（序章・第 1 章・第 2 章）では研究目的、SV の手法や定義、また CSW を対象にした GSV の手法、第 2 部二段階式検討会の構築（第 3 章・第 4 章）では、課題検討シート、14 ステップ、第 3 部二段階式検討会実践・報告（第 5 章・第 6 章・第 7 章）では事例検討会の効果、モニタリング検討会の効果、二段階式検討会の効果、第 4 部二段式検討会総括（第 8 章・終章）では外部評価と総合考察について構成される。

### 3. 研究方法

地域生活支援のスキルアップをめざす社会福祉士 18 名（女性 7 名、男性 11 名）、（平均年齢 37.4 歳、社会福祉実践経験平均 8.4 年）による研究会を構成した。この研究メンバーと、平成 23 年 6 月から平成 25 年 5 月の間に、月 1 回ペースで 15 名のスーパーバイザー（バイザー）から事例提供を受け、先行研究を参考に、GSV のシート案や手法案を作成した「予備検討会」6 回と、事例検討会 9 回、モニタリ

ング検討会 9 回の延 24 回の GSV を実施した。

#### 4. 研究成果

本研究のオリジナリティな成果は以下の点である。

##### ①モニタリング検討会の意義の提示

一度きりの GSV で、クライアントの課題や地域の課題を解決することは難しい。また、モニタリングの手法を取り入れた GSV に関する先行研究は発表されていない。そこで、本研究ではモニタリングを取り入れた GSV の手法を提示した。

##### ②二段階式検討会の手法と各期におけるスーパービジョン効果

二段階式検討会とは、事例検討会とモニタリング検討会の二回にわたって行う SV の一形態である。

この間、事例検討会では、スキルアップを支えようとする支持的な雰囲気（支持的機能）に、バイザーの実践に対して適格な評価（管理的機能）を行う。その上で、CSW としてのスキルアップを願うメンバーが指導（教育的機能）を行う。

モニタリング検討会では、事例検討会を経ているため、支持的機能は浸透しており、その上で評価と指導の議論が繰り返され、更にスキルアップを図ることが出来る。このよう SV 三機能の連環性が GSV では重要である。

##### ③SH・GSV の提示

先行研究より、SHG における援助特性について、中田（2009:16-36）が示す 8 項目に参照し、調査対象グループとの合致点を見出し、本研究の対象グループが、単なるピアではなく、SHG であるとの考察を行った。

##### ④SH・GSV による変容と欲求の関係性

バイザーが SV に求められる欲求とマズローが示した 5 つの欲求（欲求 5 段階説）の考察から、バイザーが SV に求める 5 つの欲求に対し、SV のバイザーや SH・GSV のメンバーが行わなければならないことは、スキルアップを支える適切な指導や指摘、評価等であり、この 5 つの欲求は SV 実施のポイントであることを見出した。

#### 5. 今後の課題

##### 1. 質の向上を図る研修体制の構築

バイザーのいない SH・GSV では、バイザーのスキルアップを支えるのは、参加者である。そのため、参加者の力量を高める研修体制の構築にいたった取組みを考えたい。

##### 2. 倫理綱領を厳守する環境づくり

現場職員が職業倫理に沿って SV を実施する気風が高まれば、近隣施設の CSW や、職場内の地域生活支援に関心のある他職種の職員と実施するということも可能になる。その際、バイザーがいなくても行える SV の手法として、SH・GSV の手法は必然的に普及すると考える。

## 論文審査結果の要旨

### 1. 論文の内容

本論文は、地域生活支援の展開に苦慮しているソーシャルワーカー養成のための手法を探求した内容である。第1部では、日本におけるスーパービジョンの現状や課題をまとめ、第2部では二段階式手法の概要や流れ（手法構築の経過）を示した。第3部ではこの手法の実践研究として、二段階検討会の効果に関わる機能分析や研究成果をとりまとめ、第4部ではこの手法に対する外部評価的な研究も含めた総括を行なった。

本研究ではこの手法にセルフヘルプ・アプローチの可能性を見だし、二段階式検討会としてのステップ（14行程）の提示、養成のためのシート（共通シート、二段階式課題検討シート）の提示、また手法とシートを活用したグループスーパービジョンの成果を検証した。実践過程を緻密に整理し、スーパーバイザーが不在でも取組メンバーが相互に助言を与え合う中でコミュニティソーシャルワーカーとしての能力と、そのスキルアップを図ることのできる手法をまとめ上げた。また、この手法が日本型スーパービジョンとして、スーパービジョンの充実につながり得ると提起した。

### 2. 評価

日本においては、スーパービジョンに関わる研究論文や著書は見いだせるが、社会福祉領域での実践的スーパービジョンの拡充は進んではいない。その中で、実践的手法を試行し確立させた、本研究の意義は高いと考えられた。また、その手法は我が国のみならず、スーパービジョンの進んでいない地域における活用にもつながる可能性が示唆された。

実践と併行された研究の進展の中で、手法やグループダイナミクス等の変遷を緻密な解説と図式化によって表現する意欲がみられ、その表現内容の修正を繰り返すことによって、捉えにくい動的な実践手法の明示化も試みられた。

本手法の実施期間や地域性に関する課題は指摘されたが、これらの残された課題についても正しく理解しており、今後のさらなる発展を期待することができ、本論文は一定の水準に達していると認められた。

### 3. 口頭発表（公聴会）ならびに口頭試問の評価

公聴会における発表は、論文内容を明瞭に表現し、時間通りの報告であった。いくつかの質問にも的確に回答されていた。その後、査読者5名による専門委員会の口頭試問において、研究のオリジナリティと残された課題点、「日本型」の意味に関わる見解、文章表現や人名表記に関わる指摘等についての質疑応答がなされたが、概ね、的確な回答がなされた。

### 4. 審査結果

審査委員全員一致により、本論文は博士論文に値するものとされ、「合格」と評価された。